



## 図書館から学校におすすめする あたらしい本

令和元年7月  
出版分(14冊)

### ◆◆◆ えほん ◆◆◆

小学3年生～

#### 『ヒロシマ 消えたかぞく』

指田 和／著 ポプラ社 1650円 ISBN978-4-591-16313-9

昭和20年8月6日まで広島に暮らしていた家族の写真集。人間も動物も、本当に楽しそうに写っている。写真好きのお父さんの温かいまなざしが見えるようだ。その家族が一発の原子爆弾により、一家全滅してしまう。広島平和記念資料館で、この家族の写真に出会った著者が多くの人に知ってほしいと願い、作った作品。命や平和について考えるきっかけともなる。

### ◆◆◆ フィクション ◆◆◆

小学2年生～

#### 『セミクジラのぬけがら ミッチの道ばたコレクション』

如月 かずさ／作 偕成社 1200円 ISBN978-4-03-439440-3

ミッチは何でも集めるのが好きな男の子。夏休み、プールの帰りにクジラの形をした木のかけらを拾った。誤って麦茶をかけてしまうと、なんと木のかけらは小さなクジラになってしまった。金魚鉢に入れて育てていたが、クジラはちっとも大きくなりません。ところが、ある日……。メルヘンチックな内容だが、男女問わず、楽しめる作品。細かいところまで丁寧に描かれている挿し絵が良い。

小学4年生～

#### 『うそつきタケちゃん』

白矢 三恵／作 文研出版 1300円 ISBN978-4-580-82376-1

親の都合で引越し続きのモトキは4年生。転校先で友達が出来ないことを恐れ、友達付き合いには一線を画していた。そんなモトキが、ホラばかり言っているのに人気者のタケちゃんになつかわれる。タケちゃんによって、モトキの頑なな心も変わっていく。無理のない展開で、読後感の良い作品。最後のちょっとしたどんでん返しも楽しい。

小学5年生～

## 『貸出禁止の本をすくえ！』

アラン・グラッツ／著 ほるぷ出版 1500円 ISBN978-4-593-10052-1

9歳のエイミーは本が大好き。内気な女の子で自分の思ったことを口に出すことが出来ない。ある日、エイミーはお気に入りの本が学校図書館で貸出禁止となることを知る。エイミーは友人たちとともに、この問題に立ち向かっていった。内気な女の子がきちんと自分の意見を言えるまでに成長する姿が清々しい。ここに挙げられている本が実際にアメリカで貸出禁止となっていたことを知り、驚いた。巻末にお話に登場する本の記載あり。

## 『夏に降る雪』

あんず ゆき／作 フレーベル館 1400円 ISBN978-4-577-04771-2

小学5年生の大河が主人公。家庭の都合で、母の実家のある長崎に引っ越した。人見知りの大河だが、母の薦めで戦争をテーマにした演劇に参加することになる。なんと主役になってしまい、とまどう大河だが、仲間とともに行動するうちに変わっていく。演劇の舞台となった「無窮洞きゆうどう」（大きな防空壕）についても知ることが出来る。作者のあとがきには、この遺跡の存在も伝えたかったとある。平和の学習に使える作品。

小学6年生～

## 『もえぎ草子』

久保田 香里／作 くもん出版 1500円 ISBN978-4-7743-2928-4

平安時代、清少納言が活躍していた時代が舞台。12歳の萌黄もえぎは育ての親である叔母と別れ、1人、中宮のための役所で下働きを始めたが、高価な紙を持っていたことから、盗みの疑いをかけられ役所を追い出される。その紙は萌黄の父が作り、彼女の叔母に託したものだ。数奇な運命をたどりながらも、1人の少女が自分の生き方を見つけていく物語。紙がストーリーの軸となっていて、当時の紙作りの様子や大切さも分かる。しっかりした文章で読み応えがある。

中学生～

## 『思いはいのり、言葉はつばさ』

まはら 三桃／著 アリス館 1400円 ISBN978-4-7520-0896-5

中国の湖南省に伝承されてきた文字（女書ニョウショ）をテーマにした作品。女書とは、文字を習うことの出来なかった女性たちが伝承してきたもの。主人公のチャオミンは10歳の誕生日を迎え、女書を習いにいくことになった。想いを文字にすることの喜びが綴られている作品。装丁も魅力的。

## 『リスタート』

ゴードン・コーマン／著 あすなろ書房 1600 円 ISBN978-4-7515-2939-3

13歳のチェース・アンブローズは、夏休みに自宅の屋根から落ちてすべての記憶を失ってしまった。家族の話では自分は、アメフトのスター選手で学校ではヒーローであるという。しかし実際学校に行ってみると、クラスメートからは怖がられ、嫌われていた。ビデオクラブに入り、誠意を持ってクラブの仲間に接していると、少しずつだがクラスメートとも打ち解けていった。しかし、最後にある事件が起きる。記憶を失う前と後での自分の差に思い悩むチェースの姿は本当の自分とは何なのか考えさせられる。自分探しの物語。

## ◆◆◆ インフィクション ◆◆◆

小学1年生～

## 『だれのあし？ほんとうのおおきさでみてみよう！』

今泉 忠明／監修 ひさかたチャイルド 1600 円 ISBN978-4-86549-188-3

見開き1ページでシマウマやカンガルーなどの動物の足の写真が実物大で提示されていて、次のページに解説がある。迫力のある写真が魅力的な大型写真絵本。

小学4年生～

## 『エベレスト 命・祈り・挑戦』

サングマ・フランシス／文 徳間書店 2800 円 ISBN978-4-19-864891-6

世界一高い山であるエベレストの魅力を、歴史や伝説、生息する動植物や登山家などのさまざまな分野から探っていく大型絵本。説明が詳しい。輪廻転生や森林限界など、使われている言葉に難解なものもあるが、各ページにイラストがあるので、絵を見るだけでも理解することが出来る。

## 『じいじが迷子になっちゃった あなたへと続く家族と戦争の物語』

城戸 久枝／著 偕成社 1600 円 ISBN978-4-03-645090-9

戦後すぐ、3歳で中国残留孤児となった祖父の記憶を母が子どもに伝える形となっている作品。戦争や平和について考えるきっかけになる1冊。文章が丁寧で、子ども達にも分かりやすい。当時の状況についても、公平な視点で表されており、好ましく感じる。

小学5年生～

## 『父さんはどうしてヒトラーに投票したの？』

ディディエ・デニクス／文 解放出版社 1800円 ISBN978-4-7592-2276-0

架空の街を舞台に、ヒトラー政権時のドイツの様子や人々の暮らしぶり、ユダヤ人が受けた迫害などが、ドイツ人の家族の目を通して描かれている。当時の写真も掲載されていて、分かりやすい。平和の授業にも使える。

### ★シリーズ最新刊情報★

警察官の一日 暮らしを支える仕事見る知るシリーズ	保育社
消防官の一日 暮らしを支える仕事見る知るシリーズ	